



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
 交わり深め 力あわせ
 救いのおとずれ広げよう

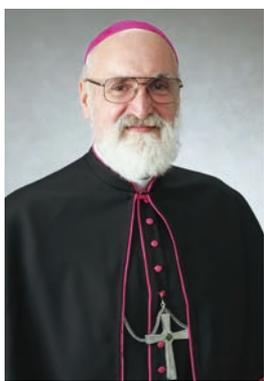
〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2022年6月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第763号 (6月号)

2022年
6月23日

沖繩慰霊の日に寄せて 司教メッセージ

「戦争への備えは、戦争の始まり」



カトリック那覇教区
ウエイン・バートン司教

十ちむがなき

恵みの雨に洗われて、沖縄は祈りの季節を迎える。長雨は、流された血を洗い、渴きを潤し、あらゆる悲しみの悔悟の涙となつてこの祈りのときを告げる。復帰に見た夢は、大それた望みではなかった。「もう、苦しみはいらない。もう、悲しみはいらない。もう、抑圧はいらない。もう、差別はいらない。もう、戦争はいらない。ただ平和に生きたい。」ただそれだけの純粋な、誰もが抱く当然の願いは、五十年を経てもなお叶えられていない。

沖繩の祈りに広がる理想像は、愛と平和と調和に満ちた世界です。それを少しずつでも確実に実現するため、沖縄は戦争への備えを止めようとしていますが、たとえ「防衛」のためであっても戦争への備えは、必ず戦争につながります。戦争が始まれば、破壊と死の連鎖が起き、互いにどうにもな

それでも沖縄には祈りがある。先祖に思いを馳せ、いのちを繋いでくださったこととその労苦に感謝し、いまを生きる者のためのとりなしを願う祈り。すべての戦争犠牲者に思いを馳せ、二度と沖縄を戦場としないため

「戦争への備えは、戦争の始まり。」これを肝に銘じ、一切の軍備を放棄しなければ、沖縄の願いは叶わず、沖縄の祈りは届きません。

すべてのひとは地球という一つの家に暮らす仲間、互いの信頼と協力、友愛と扶助によって愛による創造のわざに参与するのです。そのような人類の歩みのなかに真の平和は実現するのです。平和だけを求めてもそれを得ることは難しいでしょう。

軍事基地のない世を願う祈り。自然の恵みに浴し、小さな生活の場の平和な日常を求める祈り。軍事基地を文化・芸術・友愛の拠点とし、戦争への備えをすべて放棄した世界を切望する祈り。

恐怖をおおって猜疑心を抱かせ、敵をつくってけしかけ、「自己防衛は当然の権利」「武器がなければ攻め込まれる」と訴えては、軍備に走る国々。しかし歴史の事実はそれとは逆に戦争の準備があればどんなことがあつても、戦争になつてしまいません。もし軍備がなければ、そもそも戦争は起こりえないはず

身を守るのは武器ではなく対話です。対話による和睦↓相互理解↓協力関係↓相互扶助↓友愛関係へと発展させ、「いちゃやば ちようでー」の精神を世界中に浸透させることです。そのためには、地球上のあらゆる

身を守るのは武器ではなく対話です。対話による和睦↓相互理解↓協力関係↓相互扶助↓友愛関係へと発展させ、「いちゃやば ちようでー」の精神を世界中に浸透させることです。そのためには、地球上のあらゆる

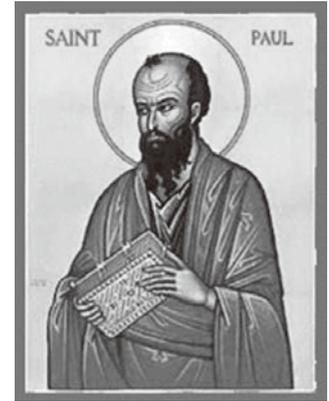
身を守るのは武器ではなく対話です。対話による和睦↓相互理解↓協力関係↓相互扶助↓友愛関係へと発展させ、「いちゃやば ちようでー」の精神を世界中に浸透させることです。そのためには、地球上のあらゆる

身を守るのは武器ではなく対話です。対話による和睦↓相互理解↓協力関係↓相互扶助↓友愛関係へと発展させ、「いちゃやば ちようでー」の精神を世界中に浸透させることです。そのためには、地球上のあらゆる

人種、血縁、国籍、地縁、言語、文化、慣習、個性などのありとあらゆる違いを乗り越えて行ける視点を持つことが何よりも大切です。それは、いのちと存在の視点、その絶対的な価値の共有です。それが沖縄の「ぬちどう宝」の精神です。(詩篇二十六・9〜12参照)

Saving Grace

It could be reasonably argued that no other human apart from Jesus himself, has had a greater impact on the world than St. Paul. His entire life can be explained in terms of one experience: His meeting with Jesus on the road to Damascus. St. Paul's theological reflection on the meaning of Jesus' life, death and resurrection has had a profound impact upon the way of life for every Christian. His top priority and passion were his relationship with Jesus. He himself once said, I consider everything a loss compared to the surpassing greatness of knowing Christ Jesus my Lord. St. Paul's goal in life was to please Christ in all things.



St. Paul's central conviction was simple and absolute: Only God can save humanity. No human effort, not even the most scrupulous observance of law, can create a human good which we can bring to God as reparation for sin and payment for Grace. To be saved from itself, from sin, from the devil, and from death humanity must open itself completely to the saving power of Jesus.

Grace that transformed Paul, can work in each one of us if we are receptive and open to the Spirit. Do not be discouraged but allow the Grace of God to transform you and strengthen you so that you can be an encouragement to the world today. If we are generous enough to surrender to his plans, He will redefine our future, and our present no matter how dark our past was. Paul's life was a true testament to God's transformative power and shining example for every Christian.

St. Paul experiences two transformations in his life. The first was at his conversion wherein his heart was transformed. He put up new spirit and became a new creation. The second transformation was a longer process: The process of sanctification, where he took up his cross daily to follow Jesus.

The Damascus Road experience cannot be planned in a dramatic way like St. Paul's was in our life. It happens through our personal devotions, personal spiritual exercises, prayer and meditation. Knowledge of the scriptures and of the world, and of the Crucified and Risen Christ is necessary for each one of us today to be true followers of Christ in this modern society.

Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewing of your mind, that you may prove what is good, acceptable and the perfect will of God. (Rom 12.2). If we are going to emulate someone in the Bible besides Jesus, St Paul would be a great choice. The secret of Paul's success was his ability to forget his past successes and continue to keep his heart and mind upon the greatest prize in the universe: The Lord Jesus Christ. He clearly said that he counted all things as dung in order that he may win Christ and it was not he who lived, but Christ who lived through him. The inspiring life of St Paul is worth imitating to grow closer to Jesus and to be in communion with God.

**By: Fr. Naveen Joseph Sequera, OFM Cap.
Futenma Catholic Church**



命の糧の大切さ

ピーター・チャネル・チェ

コザ教会 主任司祭

食べ物は人間が命を保つために必要であるように、神の子としての命に生きる私たちは、その命を養い、育てるための食べ物や飲み物が必要です。カトリック教会でのミサは最高の祈りだと教えられています。それはミサの中で私たちは、イエス様の御言葉と霊的な食べ物としてご聖体を戴くからです。ミサの中で私たちは、日々



教会でのミサに与えることは、自分一人ではなく、同じようにイエス様を霊的な食べ物として戴く教会の仲間と共に結ばれていることを感じます。共同体としてつながっていることを感じます。お互いに助け合い、認め合うことは大切なことです。ここで愛の遺言について、深い意味を教えてください。ストーリーがあるので、皆さんと分かち合いたいと思います。この話で、イエス様の残された遺言・私たちにイエス様がミサを通して教えてくださいました心の糧について黙想してみましょう。

教会でのミサに与えることは、自分一人ではなく、同じようにイエス様を霊的な食べ物として戴く教会の仲間と共に結ばれていることを感じます。共同体としてつながっていることを感じます。お互いに助け合い、認め合うことは大切なことです。ここで愛の遺言について、深い意味を教えてください。ストーリーがあるので、皆さんと分かち合いたいと思います。この話で、イエス様の残された遺言・私たちにイエス様がミサを通して教えてくださいました心の糧について黙想してみましょう。

言葉を守るべきです。イエス様の遺言とはミサである愛と行うことです。イエスを愛してイエスの言葉を守ったら、その人には何でも与えられるのです。こうして愛の遺言、信仰の遺産は受け継がれていくのです。カトリック教会はイエス様が与えてくださった愛の遺言が一番大切にして、毎日記念として感謝のミサを捧げています。ご聖体はイエス様ご自身の姿です。ヘルパーさんと同じように、イエス様の姿を見てイエスのことば、行いを思い出して感謝ミサを捧げれば幸いです。そして、ミサに与ってイエス様と共に自分を奉納し、奉獻すれば、聖変化のお恵みを通して、何でも与えられます。ヘルパーさんはまさにこの恵みに与った人だと言えます。貧しい人から豊かな人に、病める人から健康やかな人に、古い人から新しい人になります。

昔と比べ現代は経済は豊かになりましたが、まだ貧困や精神的な面で病んでいる人は多くいます。また、このコロナ禍で生活が変わり経済的に困っている人々もいます。このような生活の中で、命の糧の大切さについて考えてみたいと思います。

聖書では、二千年前の人々もやはり貧しい生活の中で、心も体も病んでいました。イエス様はこのことをよくご存じで、そのような彼らを救うために来られたと言えます。イエス様は命の糧として祈りを大切にし、み言葉・聖体の大切さを教えてくださいました。

の生活の喜びや感謝、悲しみ、苦しみ、つらさ、迷いなどについてそれぞれ祈ります。

私たちに、イエス様が心の食べ物としてご聖体をくださいます。心の糧、命の糧としてご自分を与えて下さるイエス様によって、私たちは生活の場に戻り、愛を根本精神にして生活します。そして一週間の生活をささげ、またミサの中で力づけられます。

ある所にとっても裕福な家族がいました。お父さん、お母さん、一人の子供、そして、家族の面倒を見てくれるヘルパーさんでした。ある日、お母さんは買い物に行き、車の事故にあって亡くなってしまうました。妻を失ったお父さんは悲しみのあまり病気になるました。そして半年の後、病気がひどくなって亡くなりました。子供は両親を失い、ヘルパーさんと二人だけになってしまいました。やがて警察がやって来て、親の遺言がないか部屋の中を探しましたが、なかなか見つかりません。遺言が見つかるのを待っている間、親戚の人がやって来て高いところに置かれているある物を見つけて

このヘルパーさんは、両親を亡くしたこの子供を自分の子供のように愛して、よく世話をしていました。何気なくこの子供の絵の裏を見ると、そこに遺言がきれいな字で書かれていました。それは「私たちの子供を愛して心から世話ししてくれる人は誰ですか。私たちの財産はその人にあげます」と書かれていました。残された財産は、この子供を愛し、両親の愛を生かす人へ与えられるものでした。警察は見つかったその遺言を読んで、残されたすべての財産をヘルパーさんに渡しました。

皆さん、このストーリーを聞いてどう思いますか？遺言は亡くなられた方が、生きていた私たちに残すとても大切な神聖なことばです。亡くなられた方の心からの言葉を大切にし、その

最近の新聞で、「ヘアドネーション」に取り組む子どもたちの記事がよく取り上げられています。抗がん剤治療などで脱毛した方々が使うカツラを作ってもらうために、それまで伸ばしてきた自分の髪の毛を寄付する取り組みです。今ではヘアドネーションを取り扱う美容師さんも増えて、多くの人が取り組んでいます。しかし、ヘアドネーションという言葉も一般的でない七、八年ほど前にこの活動に自ら取り組んだ人が私達の小祿教会にいます。南の光明にも以前紹介されたので覚えている方もいらっしゃると思いますが、それ以降報道等で「ヘアドネーション」という言葉を目にする度に、「Yさんもヘアドネーションを社会に広げる一翼を担ったんだ」と思い返さずにいられません。

キリスト者は四旬節の間、自分に無理のない範囲で犠牲を払うことを習慣としていますね。「愛の献金」が私たち信徒にとって一番浸透している取り組みといえるのではないのでしょうか。大人にとっては、自分の好きなもの（お酒やささやかな贅沢？）を控えて愛の献金にまわすなど、皆さんやられていることと

思いいます。しかし、今年小祿教会には自らのお小遣いやお駄賃を愛の献金にまわす四、六才の子どもがいました。

自分の小さな愛を「愛の献金」貯金箱にいつばい詰めて文化センターに届けます。子どもたちの行いにも頭が下がりますが、笑顔の元に自然な形で奉仕の心を我が子に教えるこの若いご夫婦に、ただただ感動と自ら倣わなければとの思いが募ります。

たて軸よこ軸

今を生きるカトリック教会

小祿教会 井手 一宏

の役割分担のもと準備に取り掛かりました。米を炊く人、豚肉を切る人、煮付ける人、火の番をする人、各々がイキイキ、テキパキと働いているのですが、不思議なのは誰か司令塔がいる訳でもなく、その場その場でみんな笑顔でユンタクしながらいつの間にか仕事が前進していることです。このような現象は、自分の職場ではなかなか見られません。おそらくキリスト者と

話変わって、皆さんの教会では「ゆいまーる BOX」は定着してきましたでしょうか。マーシーさんを中心とした「カリタス那覇」のメンバーで、皆さまからご寄付頂いた食料品を集約し、食べ物を必要としている方々に配布しています。最近では去る一月二十二日に牧志公園での豚井の炊き出しを行うことが出来ました。当日は朝九時過ぎにはほとんどのメンバーが文芸センターに集合し、それぞれ

しを行ったり、カリタスジャパンのリモート会議に参加したり、少しずつですが、実績を重ねてきております。

してのアイデンティティーや価値観を同じくしていることそして聖霊が働いていることの証ではないかな、と感じています。そんなこんなでカリタス那覇が活動を始めて一年と半年が経ちましたが、あいにくのコロナ禍で歩みはゆっくりとなつていきます。そうは言っても、毎月食料は順調に集まりますし、「ゆいまーるムービングカー」による販売活動（活動資金造成）を行ったり、牧志公園での炊き出

することなく、温かな家族の導きや仲間との交流の中で育まれている活動といえます。私たちカトリック教会は今を生きています。世界では戦争や争いがあったり、国内でも社会の格差や分断が問題となつたりしていますが、私たちキリスト者は登山道に積まれたケルン（石積み）のように、愛の行いを一つ一つ積み重ねて参りましょう。

それがささやかではあります。私たちができるイエズスの御心になつた行いではないでしょうか。

洗礼と初聖体 おめでとうございます！



石川教会

Yonamine Ineza Louis

Jan. 6, 2017

Yonamine Biregeya Jean Luc

August 7, 2014 (first Communion)

Yonamine Latifah

January 4, 2012 (first Communion)

Yonamine Vivian

March 9, 2010 (first Communion)

2022年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2022年5月3日(火) 10:00～12:00 会議前に聖体賛美式を主式リカルド神父が行う。

1. 報告及び連絡事項：始めの祈りはウェイン司教、司会はクレーバー神父が担当。

- ・前回(4月会議)の議事録の確認を新田が行い、承認を得た。
- ・ウェイン司教より自身の健康状況の報告と司祭たちの協力への感謝が述べられた。
- ・教区内司祭人事異動について、ウェイン司教から報告が行われ、異動となる司祭たちに委任状が手渡された。藤澤神父→石川教会。ヨアキム神父→宮古島平良教会。マイケル神父→名護教会。ボスコ神父→首里教会。ロドニー神父→石垣教会。なお異動は、主の昇天祭後から聖霊降臨の祭日前までに行われるよう要請があった。

2. 審議事項

- ・コロナウィルスについて、変異株が蔓延している状況下、ウェイン司教から下記の提言があった。コロナウィルスとの付き合いは長期化が予想される。そのため、すべての活動を中止したままでは、様々な支障が出てくることになる。主任司祭たちは、信徒会と話し合っ、どう対応していったら良いかを相談して決めていただきたい。ミサを勝手に止めたり、勉強会やその他の活動を中止することなく、コロナに注意しながら、活動を継続できる方法を模索して頂きたい。
- ・教区内の職務について、ウェイン司教より担当者の発表が行われた。女性の会担当と司教館館長はフランシス神父。子供と女性の権利デスクは宇根敦子さんとマーシーさん及びウェイン司教が担当。カリタス・ジャパンはマーシーさん。災害復興支援は津波古さん。教区召命と育成チーム及び司祭養成担当はマイケル神父。典礼はブイ神父。難民移住移動者担当はサニー神父。ベトナム共同体担当はピーター・チェ神父。青少年とサマーキャンプ担当はナビーン神父。スペイン語司牧担当はリカルド神父。平和委員会協力司祭に坂上神父。広報担当は新田さんがそれぞれ担当に任じられた。また、クルシリオ担当及び文化センター担当は調整中であることが報告された。
- ・5月の司教予定について、マーシーさんから調整が行われた。5/7は小祿の英語ミサを主式。5/8は具志川教会訪問。5/13・14は正平協議で東京。5/15は名護教会訪問。5/17ズーム会議。5/23・27学校法人会議。5/25は福岡で会議。5/29宮古島平良教会訪問等の日程が確認された。
- ・6・23慰霊の日の平和巡礼について協議が行われた。平和委員会が方向性を提示するが、沖縄の大切な活動であるので、従来通りに近い形行うことを含め、コロナに配慮しつつ、司祭たちから寄せられた様々な提言も踏まえて、平和委員会で決定の上、周知していく方向性が決められた。次回6月の司祭会議で決定される。
- ・サマーキャンプについて、事務局から報告が行われた。次期担当がナビーン神父に変わることを踏まえ、コロナの問題もあり、どのようなことが可能かを検討していくよう要請された。青少年の育成のため、できることを検討し、可能な限り実行していくよう要請があった。
- ・司祭たちの休暇について、ウェイン司教から要請が行われた。コロナ禍で休暇が取れない期間が続いたが、現在は落ち着いてきており、小祿のマキシム神父が休暇中にある。外国籍の司祭たちは順次休暇が取れるようになると思うが、教区の状況を踏まえ、1度期に複数の司祭が休暇を取ることのないよう、司祭同士で調整、配慮して休暇を申請するようお願いしたい。
- ・午後から行われるシノドス前会議について、担当のマイケル神父より、司祭たちは自分の小教区の信徒たちの意見を再読して、今後の司牧に活かして行くよう提言が行われた。
- ・その他
- ・ピース9の会担当の名古屋教区、松浦司教から、ウクライナの問題を受け、Tシャツや缶バッチなどの販売で支援を行いたいので、注文受付の依頼が届いていることが報告された。
- ・典礼担当のブイ神父から、待降節第一主日から導入される新しい典礼式文について提言が行われたが、まだ最終決定ではないので、決定されてから勉強会や信徒への周知をしていくことが申し合わされた。これに関連して、司祭たちは勝手に解釈することなく、司教団の決定に従順に従うよう要請があった。1例として、日本の司教団の決定では、ミサの中では立つ、腰掛けるが基本姿勢とされており、ミサの中でひざまづくことは、日本の教会では典礼中の統一行動として認められていないため注意が促された。
- ・3教区(那覇、鹿児島、大分)合同黙想会は今年も開催できない見通しであることが報告された。
- ・次回拡大司祭・助祭会議は2022年6月7日(火) 午前10時から12時、安里教区センターで行なわれることが報告され、結びに、戦禍に苦しむウクライナの人々のため、聖教皇ヨハネ・パウロ2世の平和のための祈りをウェイン司教が唱えて閉会となった。

6月 イエスのみ心の月



「イエスのみ心」の祭日は、「キリストの聖体」の祭日後の金曜日に祝われます。

ます。復活祭が移動祝日であるため、必ずしも六月にこの祝日が巡ってくるとは限りませんが、概ね六月に祝われることが多いことから、教会では六月を「イエスのみ心の月」と定めています。この祭日の目的は、「イエスのみ心」に表わされる神の愛を思い起こすとともに、イエスの無限の愛のしるしである「み心」を讃えることです。

教会用語の中に、私的啓示と公的啓示という言葉があります。公的啓示とは簡単に言ってしまうと、神は預言者を通して語られましたが、最終的にイエス・キリストを通して決定的に語られました。これが公的啓示です。

一方私的啓示は、聖ペトロにも語られ、聖パウロにも語られ、アシジの聖フランシスコにも、ルルドの聖ベルナデッタにも語られました。神が時代と状況に応じて今なお誰かに語り続けておられると考えられています。

心に内的に語られるだけでなく、時には不思議な仕方、特別な方法で、幻や夢、そして音声を通じて語られています。私的啓示は数え切れません。

ところで、教会が祝っている祭日のいくつかは、私的啓示が発端となったものです。このことから、その重要性がわかります。教会には祭日、祝日、記念日などがあり、重要性も、祭日、祝日、記念日の順になっています。

イエスの聖心の啓示は、私的啓示でありながらも典礼暦に祭日と記される重要なものです。イエスの聖心に対する信心は古くからありましたが、特に一般に広がるようになったきっかけは、フランス、パレ・ル・モニアルにある聖母訪問会の修道女だった聖マルガリタ・マリア・アラコック(一六四七〜一六九〇)への主イエスのご出現でした。

一六七五年六月十六日聖女にご出現になった主は、ご自分の人類への愛に燃える聖心を指し示されました。この聖心には槍に刺し貫かれた傷があり、茨の冠で囲まれています。またその上には十字架が立っています。

主は、聖心に対する人類の忘恩を償うために、聖体拝領をするよう望まれました。そしてまた、聖心の祝日を定めて欲しいとも望まれたのです(このお望みは、一八五六年に教皇ピオ九世によって実現されました)。

主イエスは、「聖心の信心」を大切にする者に対して十二の恵みを約束する、と聖マルガリタ・マリア・アラコックに告げられました。

- 一、職務を忠実にを行うために必要なすべての恵みを与えよう。
- 二、家庭に平安を与えよう。
- 三、苦しい時、慰めを与えよう。
- 四、一生の間、特に臨終の時に確かなよりどころとなろう。
- 五、すべての事業の上に豊かな祝福を注ごう。
- 六、罪人は聖心のうちに、憐れみの源と限りない大海を見出すだろう。
- 七、信仰の深い人は熱心になるだろう。
- 八、熱心な人は高い完徳にすむだろう。
- 九、私の姿を公に飾って崇敬するすべての場所を祝福しよう。
- 十、救霊のために働く人びとに、もっともかたくなな心を感じさせる力を与えよう。
- 十一、この信心を広める人びとの名は、聖心に書き記され、けつして消え去ることはないだろう。
- 十二、九か月連続して初金曜日に聖体を拝領する人は、最期の時に痛悔の恵みを与える。苦しむことなく、秘跡なしに死を迎えることなく、聖心が最期の時の避難所となる。

イエスのみ心の限らない愛に對して、できる限りの愛をもつてこたえることができるよう、この月を過ごしていきたいものです。

聖霊降臨祭：典礼暦年と典礼暦に関する一般原則より

- 22 復活の主日から聖霊降臨の主日に至るまでの 50 日間は、一つの祝日として、また、より適切には「大いなる主日」として、歓喜に満ちて祝われる。「アレルヤ」が特に歌われるのは、この季節である。
- 23 この季節の主日は復活節主日とし、復活の主日に引き続き、復活節第 2、第 3、第 4、第 5、第 6、第 7 主日と名づける。この 50 日間の聖節は、聖霊降臨の主日をもって終了する。

聖霊については、処女マリアがイエスをみごもったのは聖霊によってであること(ルカ 1・35)、イエスが洗礼を受けた時に聖霊がくだったこと(マルコ 1・10) などからもわかるように、キリストが栄光を受ける以前に、すでにこの世に働きかけていたことがわかります。その同じ聖霊が内面に働きかけ、すべての人の救いのための業を行い、教会を発展させるために、聖霊は弟子たちとともに永遠にとどまるために、弟子たちのうえに下ったのです。これを聖霊の降臨といいます。

第二バチカン公会議の「教会の宣教活動に関する教令 4」では聖霊の働きをつぎのように説明します「聖霊降臨の日に教会は多くの人の前に公に現わされ、説教によって諸国民への福音の宣布が始められた。そして、普遍的信仰において結ばれる諸国民の一致が、新約の教会を通して予告された。この教会は、すべての国語を語り、愛をもってすべての国語を理解し、受け入れ、こうしてバベルの離散を征服する」。このことから聖霊降臨が教会活動の始まりだといわれ、特別に祝われます。またこの出来事はキリストの復活から 50 日目で日曜日にあたり、この日をペンテコステ(ギリシャ語で 50 の意)とも言います。

聖霊によって使徒たちがキリストの教えをよく悟り、力強く述べ伝え、多くの人々をキリストへの信仰に導いたように、教会はその歴史の中でこれまで、そして現在も聖霊が働かれていることを宣言し、その意義を唱え、そして聖霊による働きを求めています。

公会議公文書は次のように明言します。「聖霊はあらゆる時代に全教会を『交わりと奉仕のうちの一つにまとめ、位階制度と霊の種々のたまものをもって教え導く』。また聖霊は、教会の諸制度の魂であるかのようにそれらを生かし、信者の心にはキリスト自身を動かした同じ宣教精神を注ぎ込む。時として聖霊は、目に見えるかたちをとって、使徒的活動に先立ち、また種々の方法によってその活動に絶えず伴い、それを導く」(宣教教令 4)。

DEO GRATIAS!

ベラルド押川壽夫名誉司教

司教叙階二十五周年を迎え、神に感謝！二十五年前からの友（あの頃は若いフィリピン司祭だった）、今や教皇庁福音宣教省長官となったタグレ枢機卿様からもお祝いの手紙をいただいた。横浜梅村司教からもお祝いの花束が届いた。このところ、終活に向けてゆっくりに舵を切り歩みをはじめている。あれから四半世紀が過ぎた・・・二十五周年・・・光陰矢のごとし。これまでの皆さんのお祈りに感謝



5月の司教訪問



■ 5月15日(日) 名護教会公式訪問



■ 5月8日(日) 具志川教会公式訪問



■ 5月29日(日) 保良教会公式訪問



■ 5月29日(日) 宮古島平良教会公式訪問

感謝のうちに！

フランシス・ティエン神父 (安里教会 主任司祭)

去る5月19日からさかのぼる約半年前、私フランシスは兄弟司祭たちとバドミントン競技の運動中に倒れ、心肺停止状態になりました。最近、そのような状況に陥る40代や50代の男性たちの数がだんだん増えているそうです。そして彼らのいのちの多くが残念ながら失われてしまいます。たとえ、いのちが助かったとしても、体のどこかが不自由になってしまいます。フランシスもそうなると思われましたが、死の淵から生き返り、目覚めるとヨアキム神父様と津波古聡さんがそばに立って喜んでくれました。五感がちゃんと働くことを確認しながら、多に喜び、深く神様に感謝いたしました。これは本当に奇跡です。フランシスはこの世の使命をまだまだ果たしていないので、新たな命を頂いた事と、神様のみ旨を探し求めながら、そのみ旨の内に与えてくださる使命を果たすことができるように心をこめて祈ります。あれから毎月19日には、フランシスは感謝のミサを捧げています。慈しみ深い父である神様を始め、フランシスのそばに送って下さる方々、那覇教区の司教様たち、司祭たち、シスターたち、信者の兄弟姉妹の皆さん、中頭病院と友愛病院の先生や看護師の方々、ニライ消防本部の方々、これら全ての人たちに感謝申し上げます。皆さんの祈り、励まし、支えのお陰で僕の健康は以前より良くなってきています。そして、毎日神様に向かって、この歌を捧げます。「御手の中ですべては賛美と感謝に変わる・・・」♪

6・23 沖縄慰霊の日

6・23 に毎年続けてきた平和巡礼ですが、コロナ禍のために 2 年続けて中止となっています。今年はどうしたら良いかを、司教様と平和委員会とで話し合い、その結果、次のような対応を取ることが決まりました。

1. 午前 11:00 に安里教会で司教主式による、平和祈願と戦争で犠牲となられた方々のために、追悼ミサを捧げて、お昼 12:00 に黙祷します。
2. 「平和巡礼」として歩くのは、個人で計画しても構いませんが、教区レベルでは行いません。各小教区では、6 月 23 日に沖縄慰霊の日のごミサを捧げて下さい。安里の時間に合わせても合わせなくても構いません。主任司祭と役員さんたちとで協議して、ミサの時間をご判断下さい。沖縄慰霊の日の典礼は、後日主任司祭たちに送ります。宜しくお願いします。

Due to the increasing numbers of infection in Okinawa, upon discussion with the Justice and Peace members. Bishop decided that for **Irei no Hi (June 23)**, **Bishop will do a Mass at Asato Church at 11:00 a.m. and by 12:00 noon** there will be a silent prayer. Bishop says you may have your Mass at your respective parishes at the same time or you may do it earlier, it depends on you and your discussions with your parish council. Those who would like to walk may walk on their own schedule, but there won't be any walking program on the diocesan level. The liturgy for the Mass will be sent later.



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



訃報

◆安里教会
 ペトロ 川満 信也 様
 2022年5月24日帰天 享年49歳

◆与那原教会
 マリア 宮城 安子 様
 2022年5月26日帰天 享年91歳



「やすらい企画」

葬祭の

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
 TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
 E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。
 *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
 *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
 ☎098-853-1059

